

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立鳥取東高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成31年 4月23日
------	---------	-----	-------------

1 学校目標	
<p>さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める</p> <p>1 自分の将来をはっきりと思い描き、その目標に向かって努力する主体性を育成する</p> <p>2 社会のどこかを支える人間、一隅を照らす人に育てる</p> <p>3 他者を思いやる優しさ(親和)、困難に立ち向かう逞しさ(克己)、探究しようとする積極性(進取)を育成する</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢が語れ、高い志を持って自己の将来像を設計し、実現に向けて主体的に努力する力を育成する。 ・大学入試センター試験や二次試験の研究と対策を進め、生徒の実態や教育課程に対応した学習指導の充実を図る。 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国模試で校内平均点偏差値が、1・2年生は55を、3年生は50を上回る ・国公立大学の現役合格者140人、うち難関大学等合格者10人をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者は全員、希望先への就職となった。 ・進学希望者は、概ね希望する進学先を受験することができた。二次試験に向けた主体的な努力という点では、SHR等を実施したが徹底できていない点もあった。 ・国公立大学推薦入試の利用を進め、一般入試では合格が厳しい生徒も合格することができた。 <p><数値結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国模試での校内平均点偏差値は、年間を通じた平均が、1・2年生は52～53、3年生は49であった。 ・国公立大学の現役合格者は130人。うち難関大学合格者は2名(大阪大学)であった。
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県版キャリア教育推進事業 「ようこそ高校へ」版キャリア塾 <ul style="list-style-type: none"> …各学年の生徒に対して、進路意識やキャリア意識を高めるため外部講師を招いて講演をいただいた。 1年生 7月12日、文理選択に関わる講演会(ベネッセ・野村氏) 3年生 6月14日、大学受験・就職に向かうにあたっての講演会(河合塾・柴田氏) (2年生は、保護者進路講演会【独自事業】と同時に行った) <p>【独自事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導力向上事業 <ul style="list-style-type: none"> …難関大学などへ向かう生徒指導のため、県外予備校への研修や先進校視察などを行った。 7月30日 難関大学入試研究会(駿台予備校、神戸)2名派遣 8月23日 高大接続研究会(駿台予備校、大阪南)1名派遣 12月2日 大学入試動向研究会、神戸大学入試対策指導研究会(駿台予備校、神戸)1名派遣 12月23日 京大・阪大・神戸大入試動向研究会(駿台予備校、大阪)1名派遣 3月21日 京大・阪大・神戸大入試問題研究会(駿台予備校、大阪)3名派遣 難関大学を志望する生徒の成績状況や志望動向などを踏まえた進路指導を行うことができた。 	

…進学指導・教育課程の充実を図るため、県外の進学重視型単位制高校の視察を行った。

2月19日 岡山芳泉高校を視察（2名） 単位制を生かしたきめ細やかな学校設定科目の設置と教育課程の編成、総合的な学習の時間を軸とした探究的な学習の取り組みについてご教示いただいた。

・鳥取学推進事業

…進路意識を高め、明確にするために1年次では鳥取を題材にして研究・訪問し、2年次では講演会を行った。

1年生は、10月11日に鳥取県東部地区を中心に企業・研究所訪問を行った。訪問先で地域課題解決に向けたプレゼン発表を行い、指導助言をもらう。その後、改良を加えたプレゼンで校内発表会を開催した。

2年生は、2月14日に県内企業から講師を派遣してもらい、働くことの魅力、就職する意味、高校時代に身につけたい力とは、など多岐にわたる講演をしていただいた。

・学部・学科別講演会（7月5日）

…2年生を対象に、岡山大学（文・法・環境理工・理学部）、鳥取大学（医・工・農学部）、鳥取環境大（経営学部）、島根大学（教育学部、人間科学部）より講師を派遣してもらい、学部紹介・研究紹介をしていただいた。2部制とし、生徒は2学部の講演を聴くことができた。自分の希望する学部内容を知る機会となり、オープンキャンパスへの参加促進、進路志望の再確認とすることができた。

・保護者進路講演会（5月12日、河合塾・森広樹氏）

…保護者を対象に、河合塾講師から入試動向や入試環境など最新の情報を講演していただいた。同時に高校での学習習慣の大切さなども講演していただいた。

【その他】

・1年に Classi（ベネッセ）を導入することで、習熟度に合わせた家庭学習の促進、家庭学習状況（学習履歴）の把握をするとともに、ポートフォリオの蓄積を進めていく。

…Classi への入力を、1年担任団を中心に根気強く促した。入力内容としては自宅学習時間記録、課外活動のポートフォリオ入力などを行った。

4 総合所見（成果・評価）

・1年生の文理選択時期、2年生の夏期休業前、3年生の県総体後の切り替えなど、時期を見ながら講演会を開催することで、生徒が自分の進路目標を確認する良い刺激となった。

・鳥取学推進事業では、今年度から実施される「総合的な探究の時間」を見越しながら「探究」の要素を少し取り入れてみた。しかし、例年実施している内容との違いや担任の負担感など、改善すべき点も見られ、今年度改善していきたい。

・就職希望者は年度当初より指導にあたり、全員希望する就職先に就職することができた。

・進学希望者については、昨年度より国公立大学の合格者数は増えた（104名→130名）ものの、目標としている140名までは届かなかった。教員が生徒に最後まで粘り強く受験に向かって指導することを大切にしながら、受験大学に向かう生徒の情熱をさらに高める教員の工夫が必要であった。難関大学の合格者は2名にとどまった。受験した生徒数自体が3名と少なく、学力と意識の高い受験生を育てる必要がある。

・Classi への入力は担任にとって相当な負担となった。今年度は1年・2年に導入するが、生徒の自主的な入力となるように促していきたい。

※枚数任意